

令和5年度 厚生労働省委託事業

「在宅医療の災害時における医療提供体制強化支援事業」

連携型BCP・地域BCP策定に関するモデル地域事業の取組み

柏市健康医療部 地域医療推進課

令和5年度 連携型BCP・地域BCP策定に関するモデル地域事業

＜事業概要＞

趣 旨：病院等の一定程度の規模の医療機関では、事業継続計画（BCP）の策定等を通じて、災害時における医療提供体制が強化されつつある。しかし、在宅医療については、患者が機関外にいるという特性があり、災害時には自機関の施設の事業継続に加え、在宅医療の提供継続のため、行政や他の医療・介護提供機関等との連携が必要となる。そのため、自施設のBCPのみならず、同業・類似事業所間の連携による連携型BCP、さらには、その地域全体の医療・ケアの継続と早期復旧を目的とする地域BCPへスケールアップしていく必要がある。先進的に連携型BCP・地域BCP策定に取り組む地域をモデルとし、今後の全国展開に資するプロセス使用されるツール類を創出することを事業趣旨とする。

対象地域：参加申請自治体・機関のうち、専門家委員会で協議を行い、対象地域の選定を行う。

実施内容：地域内の解決したい課題をもとに、地域BCPの策定を支援する専門家委員会と協議のうえ、取り組み内容や成果案を決定し、専門家委員会の伴走支援を得ながら事業を実施する。

実施期間：決定日から令和6年2月29日まで

【BCP専門家委員会委員長】 山岸 暁美 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室
一社）コミュニティヘルス研究機構 機構長・理事長



《取り組んだ課題》

- 在宅医療に係る医療機関や事業所における自施設のBCP策定、及び連携型BCP・地域BCPの検討・策定に向けた意識の醸成。
- 在宅医療の災害時における課題を整理、関係者と共有し、対応策について具体的な検討を進めるための体制構築、次年度以降の取組みのロードマップ作成（連携型BCP、地域BCPの策定に向けた基盤整備）。

《取組み内容》

- 診療所、訪問看護ステーション、介護サービス事業者等を対象とした連携型BCP・地域BCPをテーマとした研修会の実施。
- 「顔の見える関係会議（圏域会議）」において、連携型BCP・地域BCPをテーマとした意見交換を実施（災害時における課題抽出、対応策の意見出し）。
- 連携型BCP・地域BCP策定のためのワーキンググループを設置し、次年度以降の取組みについて検討（ロードマップ作成）。

2

令和5年度 柏市におけるモデル地域事業の取り組み

《モデル地域事業 スケジュール》

時 期	内 容
9月	連携型BCP・地域BCP策定に向けたコアメンバー会議設置 （柏市医師会/訪看連絡会/ケアマネ協議会/介護サービス事業者協議会） ※9/6に第1回会議開催
	顔の見える関係会議（圏域会議）のための 合同ファシリテーター会議（9/11開催） ・災害発生時に想定される課題と優先的な取組みについて検討 ※圏域会議のテーマ決定
10月	モデル地域事業 進捗報告会（10/8） ※モデル事業に取組む26地域の進捗報告
	研修会「在宅医療の災害時における業務継続計画(BCP)について」（10/30開催）
11月	顔の見える関係会議（圏域会議・4エリアで開催） ・災害発生時の課題への対応策についての意見出し
12月	連携型BCP・地域BCP策定に向けたコアメンバー会議（12/18開催） ・圏域会議の意見を踏まえ、対応策の具体化に向けた協議体制（ワーキンググループ設置）の検討 ・連携型BCP・地域BCP策定に向けたロードマップの素案作成
2～3月	モデル地域事業 意見交換会（2/4） ※モデル事業に取組む26地域の事業報告、意見交換
	第1回 地域BCP策定に向けたワーキンググループ開催 ・地域BCP策定に向けたロードマップについて協議
4月以降	ロードマップに基づき、地域BCP策定に向けた協議、取組みを実施

3

取組み①：連携型BCP・地域BCPをテーマとした研修会の実施

日時／開催方法

令和5年10月30日(月)19:00～20:30／オンライン開催

内容

≪講演≫「地域BCPのススメ」

～スタッフの、そして患者・利用者の、さらには住民のいのちと暮らしを守るために～

講師 山岸 暁美氏 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室
一社)コミュニティヘルス研究機構 機構長・理事長

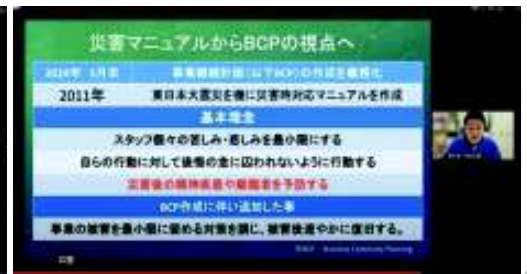
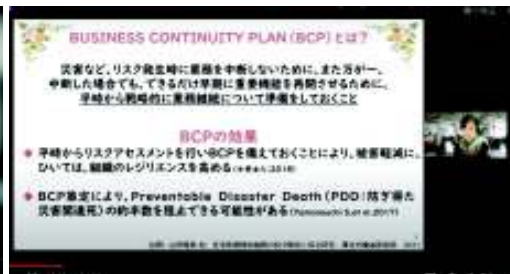
≪事例発表≫「災害シミュレーション訓練を通じて気付いた自助の重要性」

～訪問看護ステーションのBCP～

講師 勝本 公章氏 南柏訪問看護ステーション 理学療法士

当日参加者数 (接続数)

129名(事前申込数170名) ※11月6日～30日 アーカイブ配信実施(視聴回数314回)



4

取組み②：顔の見える関係会議でのBCPをテーマとした意見交換

合同ファシリテーター会議(9/11開催)

- 連携型BCP・地域BCPのレクチャー(動画視聴)
- 災害発生時に想定される課題抽出及び優先的に取り組む課題(圏域会議テーマ)を検討

顔の見える関係会議(圏域会議) ※11月に4エリアで実施

テーマ「在宅療養者を守るための連携型BCP・地域BCPについて」

- 連携型BCP・地域BCPのレクチャー(動画視聴)
- 柏市医師会の災害医療対応マニュアルの説明
- 「在宅療養者や支援者の効率的な安否確認や情報共有のあり方」等について意見交換

≪主な意見≫

安否確認の優先順位の決定, リスト作成
安否確認を行う担当者の取り決め, 役割分担の確認
情報共有のためのツールの検討 等

【参加者】ファシリテーター会議 67人

圏域会議(4エリア) 209人

医師・歯科医師・薬剤師・看護師・理学療法士・管理栄養士
医療ソーシャルワーカー・介護支援専門員・介護職・施設相談員
行政職員(救急救命士, 防災部署職員) 等



5

第1回 コアメンバー会議（9/6開催）

- 趣旨説明・顔合わせ及び意見交換

《構成団体》

柏市医師会／柏市訪問看護ステーション連絡会
柏市介護支援専門員協議会
柏市介護サービス事業者協議会
※柏市地域医療推進課（事務局）

第2回 コアメンバー会議（12/18開催）

- 地域BCPとして取り組むテーマ、
取組み内容、協議体制等の検討



地域BCPとして取り組むテーマ 「効果的な安否確認と情報共有について」

《目標》 地域住民や関係者が連携し、迅速で効率的に在宅療養者の安否確認に係る情報を集約し、関係者間で共有できる体制を整備する。

《具体的な取り組み（案）》

- 既存の仕組み（防災福祉K-Net等）を踏まえつつ、その問題点を明らかにし、新たな安否確認及び情報共有システムの検討
- サービス担当者会議を利用した個別避難計画の策定（自助、互助の視点も重視）

6

今後の取組み

発災後、災害関連死に陥りやすい在宅療養者（避難行動要支援者）を守るために

- 在宅療養者の自助の意識を高める
- 町会や自治会と連携し、防災福祉K-Netを活用した在宅療養者の安否確認を行う体制の構築
- 在宅療養者に係る各職種が、災害時の在宅療養者の困難を予測し、支援の準備を行う
（福祉避難所の確認、非常用電源の確保の方策、安否確認の方法 等）
- 情報共有システムを活用した、災害時の情報共有の仕組みづくり



地域BCP策定に向けたワーキンググループで、具体的な取組みを検討

《構成団体》

柏市医師会／柏市訪問看護ステーション連絡会
柏市介護支援専門員協議会／柏市介護サービス事業者協議会
事務局：柏市地域医療推進課

※協議の内容に応じ、必要な関係団体、市の関係部署に参加を依頼

7